

随筆 エッセイ

奨励賞

私はわたし

今江町 木村 麻由美

私はレックリングハウゼン病という病気で体全身にアザがあります。移ったりはしません。が遺伝する病気です。

子どものころ、男子にバイ菌扱いされたり気持ち悪いって言われました。悪趣味、そんな体に生まれたくないって、高校の時、同級生の女子に言われました。働くようになって顔にないだけまし、月とスッポン、そんな体でここに来るなって言われました。

まだ二十代の前半だったし、今でこそ、こうやって病気の事を言えるようになったし書いたり出来るようになったけど、昔、若い、若かった頃は、親にも言えませんでした。すごく悩みました。心がはじめてしまいました。一人で悩んで病気になってしまいました。

耳元で、お前は死ねとかここに居ると殺されるぞとか火をつけるとか幻聴が聞こえました。悪口や罵倒ばかり聞こえてとっても苦しくて辛かったです。たくさん泣きました。

食べた物を吐いたりもしました。鍵を閉めたか？ 火の元も何回も確認をしなければ寝れませんでした。いろんな事がありました。

でも今は、前向きに考えるようになりました。病気になったのは誰のせいでもありません。又誰も責める事も出来ませんし恨めません。

脳腫瘍にも四十七歳の時になりました。私はレックリングハウゼン病、心の病、脳腫瘍と三つの病気と共に生きていこうと思えます。

心の病気の再発、レックリングハウゼン病が今よりひどくなるかも知れないし不安でいっぱいです。心にもない事をグサリ言う人もいるかもしれません。でもいいんです。私はこうやって書く事で心癒やされるし心が楽になるからです。もちろん、自己満足って言われればそれまでですが。

心の病気になり今に至ります。心の病気をしてから早や三十年近くなります。正確にいえば二十九年ですが、同級生の人達は年ごろになり次つぎに結婚して子どもを産んでいくし、私は心の病気の再発や体の不調で心はもうパンクしそうなくらいにパンパンでした。

でも今はとても幸せです。体の不調もよくなり泣く事もなくなりました。私はわたしでいいんだって気づくのに三十年近くかかりました。

二十代の頃は顔も性格もみんな大嫌いでした。嫌いでした。嫌いでしかたありませんでした。家でお風呂に入る時も自分の体をみると憂鬱になります。レックリングハウゼン病は治らないので仕方ありません。

私はなんとか心の病気をよくしたくて、たくさん、本を読みました。心の本、哲学、

自己開発の本、いろんな本を。

どの本も自分の事を好きになれって書いてありました。本をたくさん読んだけどなかなか体の調子はよくなりませんでした。たくさん泣きました。自分の事を好きになれませんでした。食べた物を吐いたりしました。いろんな事がありました。

今年の四月に腫瘍が少し大きくなったので又手術をしました。本当は二月の予定だったけど病院の都合で四月になりました。年がとしますのでこれから生活習慣病にかかるかも知れません。五体満足で何を贅沢など言う人もたくさんいると思います。でも五体満足だからこそいろいろ心の葛藤があります。

誰のせいでもないし誰も悪くないし誰も恨めません。今、こうやって生きている（生かされている）というのは、何だかの意味があるのかも知れません。まだ人生の勉強不足で勉強（修行中）です。人生、一生、勉強ですね。私の人生、誰のものでもありません。自分のものです。私はわたし。

私という主役の人生です。これから先どうなるかはわかりません。でも私はマイペースで一步、一歩歩いて生きたいです。